

7 各学科の教員配置数に関する調査

全国高等学校農場協会振興局

1. 目的

農業科教員は、普通科教員や他の専門教科教員と同様の業務を行う以外に、日々、広大な農場管理を行っており、学校現場の業務が煩雑化する現在、その負担は大変大きく、授業や生徒対応および、教職員の健康にも影響しかねない状況にあります。

このような状況を改善し、より良い環境で充実した農業教育が実践されるためには、農業系教職員の負担の軽減することが第一であり、そのための最善策が、農業教職員の適正配置に関することです。

昨年に引き続き、農業関係学科の教員配置の実態を調査するために実施しました。

2. 対象

農業関係学科を設置している高等学校

回答数 376校 回答率 100%

3. 結果

(1) 全国的な教職員配置数は、教諭が1校当たり9.6名、1クラスあたり1.3名であった。実習助手は4.7名(1校あたり)、0.6名(1クラスあたり)であった。すなわち、単学級の学科での教員配置は、教諭4名、実習助手2名となる。

(2) (1)の基準で結果を見ると、学科の種類別では、農業・園芸系では教諭5名、実習助手は3名である。環境系では教諭6名、実習助手2名。食品系では教諭3名、実習助手2名、生活系は教諭2名、実習助手1名。その他(動物系が主)では、教諭4名、実習助手1~2名。総合学科では、教諭2名、実習助手1名であった。

また、農場管理には、行政職の技術職員や作業員を雇っている学校もあり、教育職以外の人員や非正規雇用の利用が進んでいる実態がある。

4. 考察

全国平均を考えると、単学級の学科であれば、教諭4名、実習助手2名が基準といえる。学科別の教員配置数を比べると、実習助手は農業・園芸、動物系に多く配置され、食品系と生活系の学科は、教諭と実習助手ともに、配置数が少ない。

また、クラス数が多くなると、教員数は変わらないが、実習助手の配置が厳しくなる傾向もあった。2クラスであれば、教諭7~8名、実習助手4名の配置となっている。

総合学科に関しては、全国平均の半数程度の配置数である。

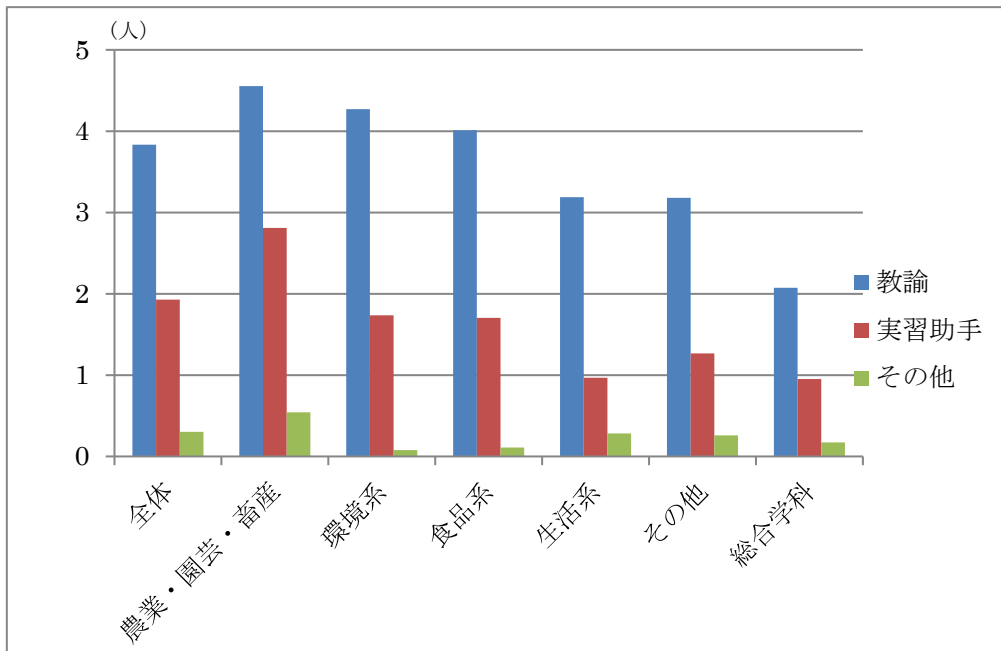


図 1. 教員配置数（全体・学科別・単学校数あたり）

5. まとめ

今回、教員配置数を調査してわかったことは、各学校で、学科の特性によって、人員の配置を工夫していることである。農場管理や山林の管理などがある学科には、多くの教員配置がなされているが、食品や生活系などの圃場や生産を伴わない学科では、実習助手の配置が少なくなっている。また、農場管理や実験実習設備の維持に必要な人員を、教育職以外の職員で補充している現状がわかった。

GAPやHACCPの取り組みが進む中、生徒の安全を確保し、教材の維持管理や発展的な取り組みを進めるうえでも、農業科教職員の適正な配置を強く要望したい。